

書 法語

満優抄

書家 永田灌櫻 × 蓮照寺住職 松岡満優



ゆい か しん
【唯可信】

—ただ信ずべし—

『教行信証』(正信念仏偈)

平成27年7月21日午前4時20分、娘の唯が浄土に参らせていただきました。5年6カ月と2週間の人生でした。唯は生後8カ月の時に危篤となり、検査の結果、メチルマロン酸血症という50万人に1人の難病だとわかりました。以来、入退院は繰り返すものの、家におります時は健康な子と同じように過ごすことができました。このまま治ってくれるのではないか……そんな私たち夫婦の思いも虚しく、昨年2月21日に緊急入院。5カ月に及ぶ入院の間に唯は6回「危ない」と言われました。そして7回目となったのが7月21日でした。

唯を乗せて自宅に帰る車の中で妻が「お父ちゃん、浄土真宗でよかったね。お念仏いただいでいてよかったね」と言いました。

唯が亡くなる前日、医師が目には涙を浮かべながら「お父さん、申し訳ないんですが、どうすることもできないんです……」。私は「先生、申し訳ないどころか、どうすることもできないんですしたら、そりゃ

阿弥陀さまにおまかせするしかないですよ。どうすることもできないと言われて、かえって胆がすわりました」とこたえました。

「わが、はからいにあらず」……私は自分の人生はもちろん、娘の人生までも、何とか、どうにかして思い通りにしたいと考えておりました。そんな自分に気づかされた娘の往生でした。思い通りにならない時こそ、自分自身が問われている。

「唯可信」……ただ信ずべし……「唯」とは、何となく、ではありません。無気力ということでもありません。己のはからいを超えた世界「他力」にまかせきるということです。そう思えた時、力が抜けてしまった私の体に、力がわいてきました。今日もお念仏とともに強く明るく……。布教に行った先でご門徒から「先生、唯ちゃんにパワーもらってますなあ」と言われるのが何よりうれしい今日この頃です。

ながた・かんおう

玄潮社同人・蓮照寺門徒

まつおか・まんゆう

本願寺派布教使